

国際法協会第 80 回（2022 年）ポルトガル大会報告

国際法協会第 80 回世界大会は、2022 年 6 月 19 日から 24 日まで、リスボン（ポルトガル）にて開催された。前回（2020 年）の京都大会は新型コロナウイルス感染症の世界的拡大の影響でオンライン開催となったため、2018 年のシドニー大会以来、4 年ぶりの対面での開催となった。本大会には、世界の 47 の支部から計 292 名（日本支部からは 5 名）が参加した。

開会式では、アントニオ・グテーレス国連事務総長から届いたビデオメッセージが流れ、続いて、柳井俊二国際法協会会長（日本支部代表理事）より、次期会長である Manuel Almeida Ribeiro 氏に、会長バッジの引継ぎが行われた。

Our Common Good というテーマの下、18 のパネル、19 の委員会、研究部会、若手研究者の会合の他、ウクライナ紛争に関する諸問題についてのラウンドテーブルが行われた。

詳細は、<https://ila2022.org/wp-content/uploads/2022/05/ILA-2022-Programme.-06.22b.pdf> を参照されたい。また、各委員会および研究部会の報告書および決議は以下より入手可能である。<https://www.ila-hq.org/index.php/about-us/committee-reports-and-resolutions>。

日本支部からは、岩沢雄司理事（国際司法裁判所裁判官）が「国際法の国内履行に係るアジアの実践」研究部会の司会を務めた。また、福永有夏会員（早稲田大学、ケンブリッジ大学ラウターバクト国際法センター）が International Trade, Investment and Climate Law パネルにおいてパネリストとして日本の立場についての報告と討論を行った。

閉会式では、Mathias Cormann OECD 事務局長から届いたビデオメッセージが流れ、また、ILA 2023 組織委員長である Catherine Kessedjian 名誉教授より、2023 年 6 月 18 日から 23 日までパリで開催される ILA 150 周年記念大会の案内があった。なお、第 81 回世界大会は、デルフィ（ギリシャ）にて、第 82 回世界大会は、ウィーン（オーストリア）にて開催される。

（岡松暁子）